

器官制御医学講座外科学(1) ~消化器外科・乳腺内分泌外科~ 教室・研究紹介

第一外科ってどんな科ですか??

本教室は消化器、乳腺内分泌外科の疾患の診療に従事しており、上部消化管部門、下部消化管部門、肝・胆膵部門、乳腺内分泌部門で構成され、良性疾患から悪性疾患、救急疾患の手術の他、化学療法、緩和医療、臨床研究、基礎的研究など標準治療から最先端医療の実施に加えて新規治療法の開発にも取り組んでいます。患者さん一人一人をよく診て、考え、最高の治療を提供することを基本理念とし、診療をおこなっています。診療能力、手術手技がしっかりと獲得できる十分な修練(症例数を含め)が可能な体制が整っており、地域、国内、海外の第一線でリーダー的な医師となること、さらに倫理観を兼ね備えた人間味のある医師を育てていきたいと考えています。

教授：五井 孝憲



普段どんな仕事をされていますか?

	月	火	水	木	金
午前	手術	術前カンファレンス 外来業務	手術	術後カンファレンス 教授回診 外来業務	手術
午後		検査	病棟業務		病棟業務



教授回診 (コロナ前)



腹腔鏡下S状結腸切除術



ロボット支援下直腸切除術の手術風景

外科の治療の基本は“手術”になります。当科では、大腸癌や胃癌、膵癌、肝臓癌といった消化器癌と乳癌などの内分泌癌の治療を主として、治療を行なっています。虫垂炎などの一般腹部手術から、左の写真は直腸癌の手術風景の一例ですが、ロボット支援下手術や腹腔鏡手術など最先端の高難度手術まで施行可能となる環境が整っています。

よく病院実習の5年生に「外科医の先生は手術以外のこともするんですね!!」と驚かれますが、

手術だけでなく、救急対応(緊急手術の対応!)から、内視鏡検査などの検査(当科の外科医は全員内視鏡ができます!)、抗がん剤治療(たくさんの患者さんが通院されています)、緩和医療(お看取りもたくさん経験します)まで可能です。都会では病院の機能上、縦割りになってしまいがちです。

自分が手術した患者様とずっと関わっていただけることは私達は幸せなことだと考えています。まさに“Total”でみれる医師になれることが、福井で外科医ができる魅力と考えています。

抗がん剤のSpecialistになりたいです!がんの研究がしたいんです!そういった目標を持った先生も大歓迎です!!

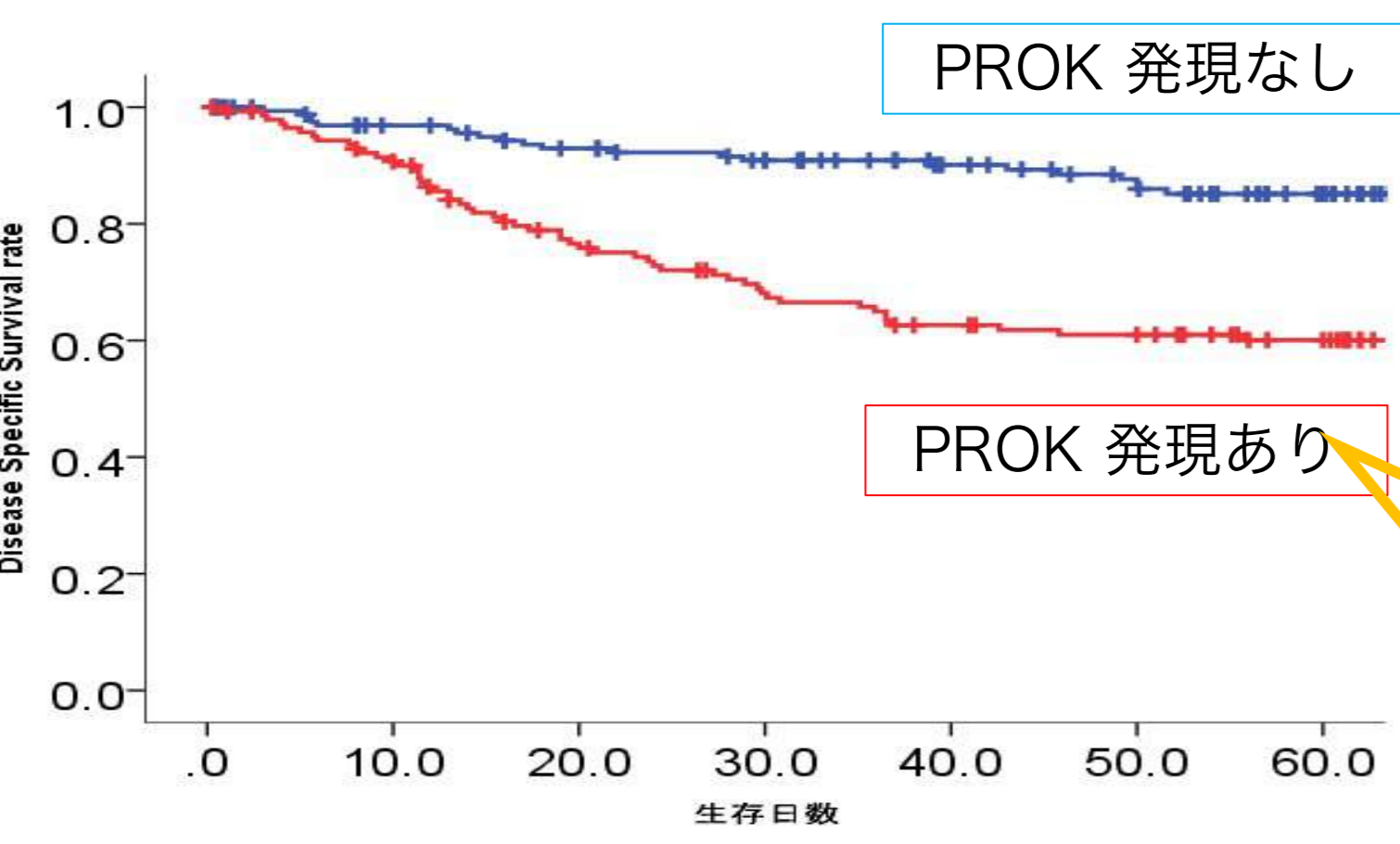
研究って?

新規治療の創生や、疾患原因の解明には日々の研究が必要です。当科では臨床研究や基礎研究を行なっており、
1. 大腸癌に対する浸潤、転移機構の解明ならびに新規治療の開発
2. 胃癌に対する浸潤、転移機構の解明
3. 乳癌に対する内分泌治療効果予測診断の開発
4. 膵臓ラ島の分離、移植法の開発
の4つが大きな柱になります。大腸癌の研究を今回紹介します。



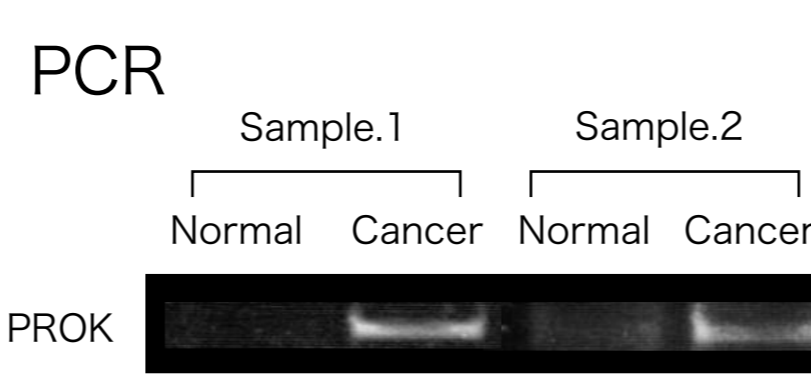
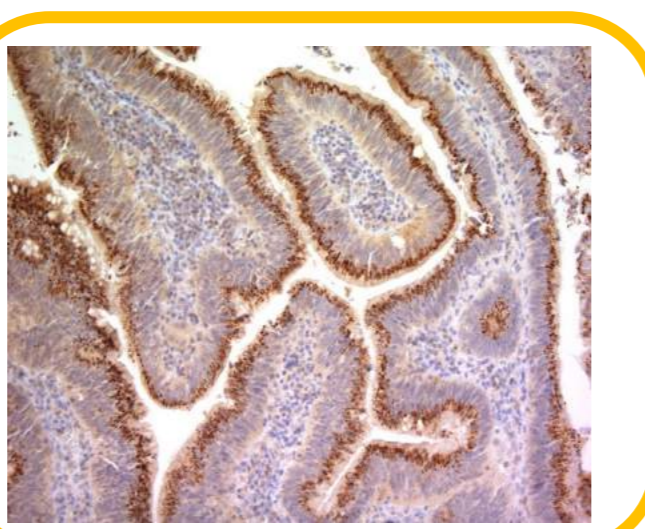
1.大腸癌における新規創薬にむけた研究

大腸癌患者の原発巣で免疫組織学的染色

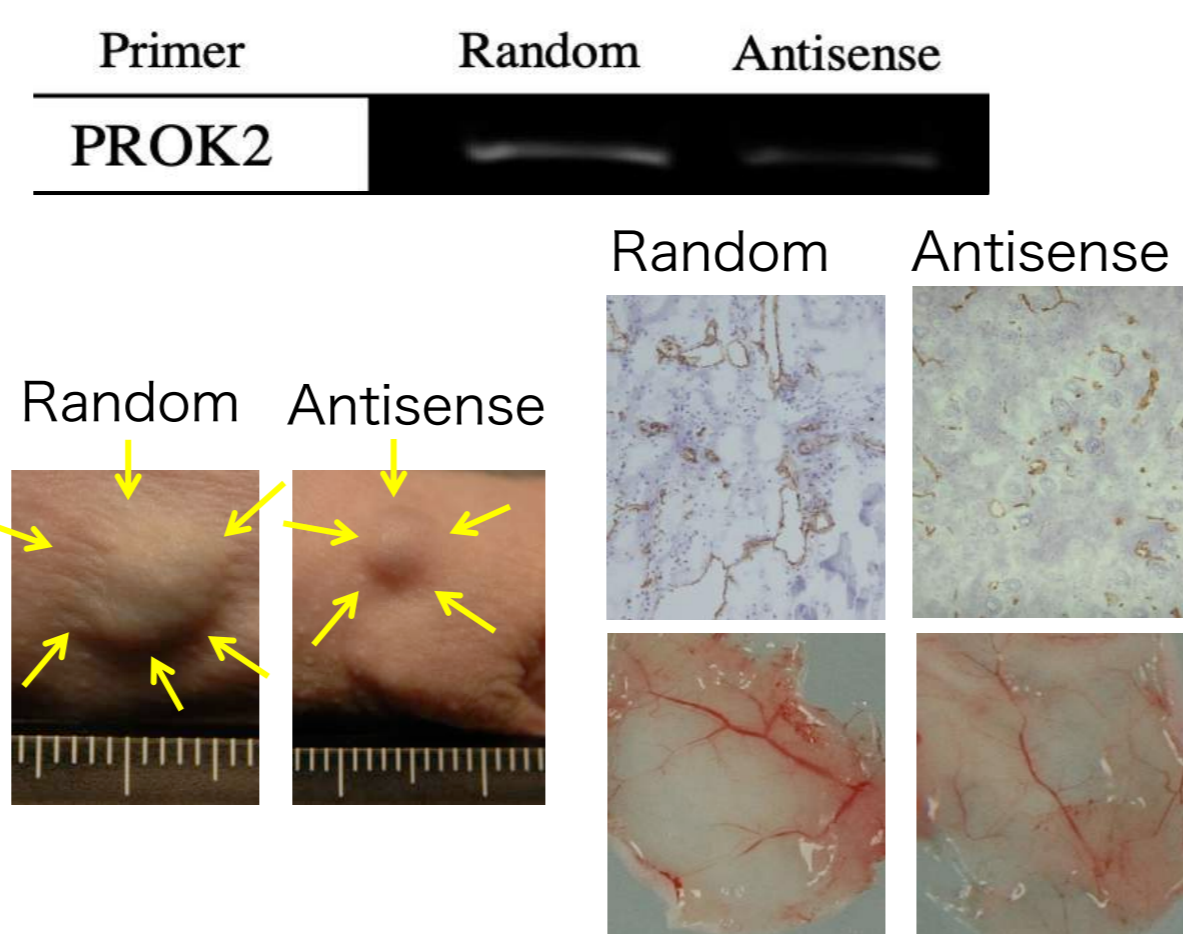
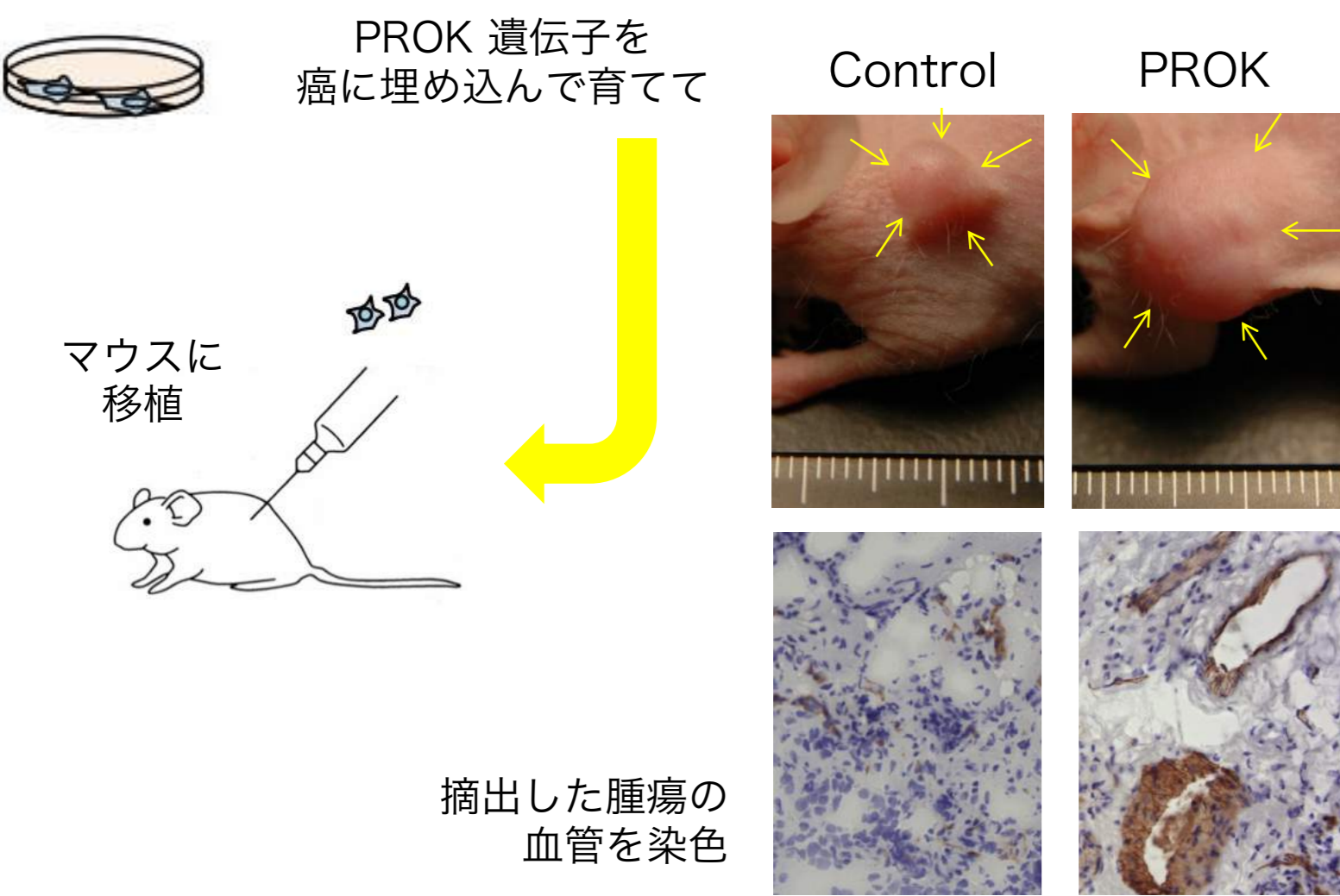


大腸癌において、血管新生因子であるProkineticin : PROKが発現していると予後が不良である

PROKを抑制すれば大腸癌の予後を改善?
II
新規治療の可能性?



PROK遺伝子を大腸癌に導入し、マウスに移植するとPROKを導入した癌細胞の増殖、血管新生が増加



PROK遺伝子を発現を抑制すると腫瘍縮小、血管新生抑制を認めた

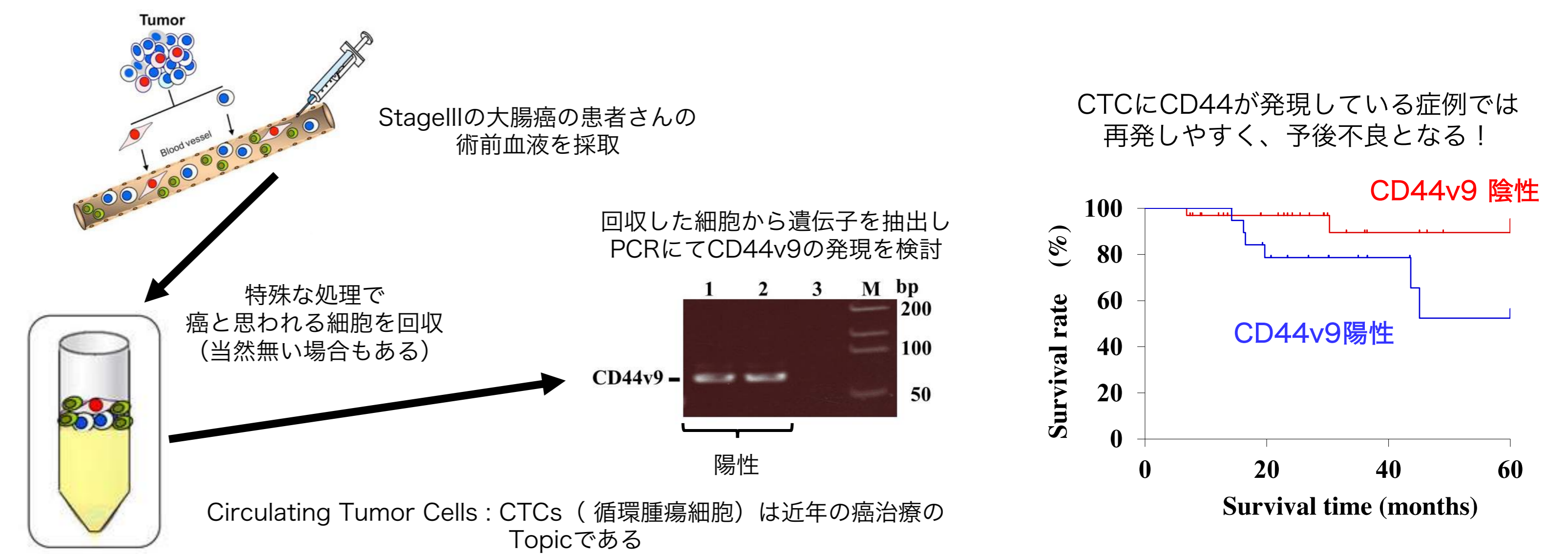
現在、PROKに対する抗体を当科で独自に作成。治療効果を評価している

抗PROK抗体の大腸癌に対する新規治療法としての可能性が評価され、特許を取得しました!(特許登録2015-127308)

現在の治療に救えない患者さんを助けられるようになるかもしれない。このような経験は、大学病院だからこそできるものなのかもしれません。次はみなさんがそんな経験をしませんか?

2.大腸癌幹細胞とCD44variant9の関連

癌幹細胞: cancer stem cellは、癌の増殖、転移、薬剤耐性に関わる非常に重要な細胞とされ、当科ではこれまでの研究で細胞接着因子であるCD44が、大腸癌幹細胞の重要な因子であることをつきとめている。今回さらに、血中の幹細胞を同定することで、再発予測因子としての役割の究明を行なっている。



CTCにおけるCD44variant9の発現は、再発予測バイオマーカーになりうる!!
血液検査だけで、再発するかどうかの予測が立てられることは、治療戦略に非常に有用

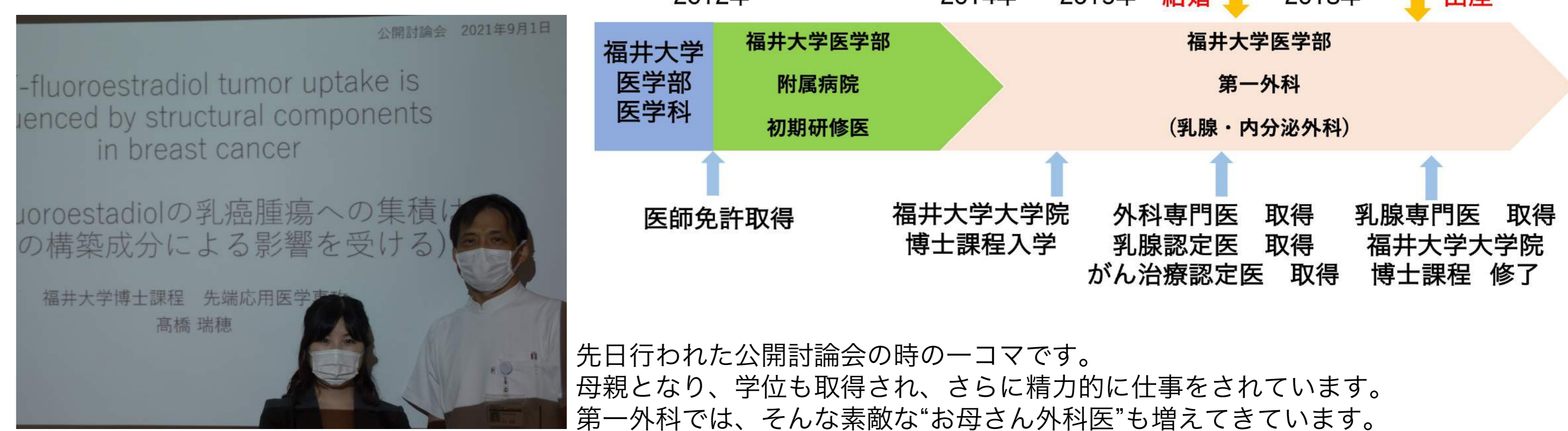
「女性外科医」として働く

外科医は体力がないとできない、男の仕事のイメージってありませんか? 命に関わる分野であるため、大変な時も存在するのは事実ですが、女性にはできないなんてことは決してありません。事実、第一外科ではたくさんの女性の先生が、「女性外科医」として活躍されています。

私は学生の頃から癌の治療に興味があり、当初は内科を志望していました。しかし卒業後初期研修2年目で第一外科を回った際に、外科の第一線で働く先生方の姿を見て、癌を自分の手術で治療できる医師になりたいという思いが芽生え、第一外科に入局を決めました。第一外科は消化器外科と乳腺・内分泌外科で構成されており、多くの優れた指導医の先生に恵まれた診療科だと思います。私も、入局した頃は外科で上手く働けるの不安がありました。同期や指導医の先生のおかげで、徐々に診療や手術に自信をつけることができました。入局後、後期研修医の間は外科一般の研鑽を積み、卒業6年で外科専門医と乳腺認定医、がん治療認定医を取得することができました。その後は、乳腺外科医としての専門的な技術や知識を習得し、卒業9年目に乳腺専門医を取得しています。また、大学病院で働くことにより研究や学会発表も積極的に行うことができ、博士号を取得することができました。外科では患者さんから女性医師の診療を求められる場面も多く、女性ならではの診療を行えることも魅力の一つです。また、結婚や出産を経ながらキャリアアップを目指すことも可能です。「外科医としてやりたいこと、できること」を探しながら成長していける仲間が増えることを心待ちにしています。



医員：高橋 瑞穂



先日行われた公開討論会の時の一コマです。母親となり、学位も取得され、さらに精神的に仕事をされています。第一外科では、そんな素敵な“お母さん外科医”も増えてきています。

スタッフ一同、みなさんと一緒に働ける日がくることを楽しみに待っています!!

